

## M氏ノ運転シタ風景ノ記憶 ⑨

正月休み、ふらつと霞ヶ浦近くの枯草の草原に来ていた。

昨日、鹿島地域を走る電車の写真を見て、どうしても見たくなつたからだ。

四、五十分草原で待っていると、その電車は来た。

クリーム色に橙色の帯模様の車輛が薄い黄土色の絨毯の上を走っている。

(そうか、これに魅かれたのは、地元で乗っていた飯坂線に似てるからだ。)

飯坂線は福島駅と飯坂温泉を結ぶ約十キロのローカル線である。

その十キロの道筋には田んぼ・桃畑・リンゴ畑・梨畑があり、短い路線の割に乗っていると  
いろいろな風景に出会う。小さい頃から通学・遠足などあらゆる移動で慣れ親しんだ鉄道で  
ある。

その飯坂線は僕の運命まで左右させている。それは、二浪目の大学入試に行くために乗つた  
時だった。極度の緊張のためか乗り物酔いをし気分が悪くなつてしまった。やつとの思いで  
試験会場に到着するも体調は戻らず、あえなく試験は大失敗。

父は僕のふがいなさに、「もう、おまえの好きな絵でもやればいいべえ」と言つたのだ。

その後、いろいろと考えた末、東京の美術系予備校に行くことになつたのである。

三月中旬、僕はリュックとポストンバック二つを持って飯坂線岩代清水駅に立っていた。

絶対、何か形にするまで帰らない覚悟で電車に乗り込む。電車はゆつくりと出発した。

窓の外を見ると桃もリンゴも梨も、まだ花が咲く前だった。